

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		さわやか愛の家たちあらい館				公表日	2025年 2月 21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			年齢や状態によって必要となる広さは変わってくるので、物理的な空間だけでなく、用途別のスペースの確保も努めてまいります。		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			現在、管理者、児童発達支援管理責任者、児童指導員、指導員での運営となっています。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		危険な箇所に関しては、早急に修繕、対応を行ってまいります。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			一人ひとりの好みや特徴を考えると十分ではないと感じられます。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			フラットな造りになっているので、個別の対応は難しい所もありますが、パーテーション等を使い、落ち着いて取り組められる空間を作ります		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			日々の業務改善を行っているが、不十分な部分もある為、より良い業務を行えるようにミーティング内容等工夫して行っています。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			毎年、お忙しいところご協力いただきまして保護者の皆様には感謝しております。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			職員全体の意見交換の機会は設けておりますが、管理者との1ON1ミーティングを今後定期的に行い、業務改善や働き方改革を行っていきます。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		事業所としては外部評価は行っていませんが、本社による内部監査を定期的に行っています。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			研修を行っているが全職員の資質の向上になっているかに関しては個人差が有ると感じられる		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			本年度より作成を行い、自己評価アンケートと共に保護者、職員にお知らせしている。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			半年に一度、モニタリング時に本人や家庭でのニーズを聞き、計画書の作成をしています。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			モニタリングを行う前に必ず支援会議を行っています。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			職員がどのように支援を行い、その結果どうであったか支援経過記録を丁寧に記載する様にしています。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			フォーマルアセスメントに関しては心理士の資格を保有している職員のみしか対応できない為、現在では難しいが心理士の入社促進を行い実践を行っていきたい。		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			地域資源の活用や関係機関との連携の在り方を深めて、より良い支援構築を行います。事業所と家庭だけでなく地域社会全体での育ちをサポートできる体制を整えて参ります。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			立案、検討、検証、実施、フィードバックなどのPDCAサイクルをより高速で回すための仕組み作りに取り組みます。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			毎回の活動に楽しく参加できるように今後も工夫していく必要がある。		

供 應	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			個別活動に関しては、現在専門的実施を行う事が出来ていない為、職員が充足した際には専門的実施を行いより良い支援を行っていく筆お湯があります
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			毎日、その日の活動内容を職員間で確認し合い、ミーティングを行っています
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			振り返りに関しては、なぜそうなったのかという原因を分析し、次回同じことが起らないようしていくこと。また良い事に関しては成功要因も記録し次回に活かします
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			記録に関してはその日に記録を取るようにしている
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			長期的な展望を見据えながらより短いスパンでの達成目標の検討も必要に応じて随時受け付けております。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5			各活動のバリエーションを多様なものにするほか、子ども自身の選択を中心構成できるようにします。
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			計画段階から意見をくみ取り自己効力感をもって支援に参加できるように構成します。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			日々の様子を職員間でミーティングする際に、児発管がまとめ、それを持って担当者会議に参加している
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	管理者が参加している	引き続き、部会へ積極的に参加させて頂きます。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			学校との密な連絡や情報共有に努めてまいります
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			普段から連絡を行い、良好な関係作りに取り組みます。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5			必要な情報を整理してスムーズな移行ができるように体制を強化してまいります
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			積極的にスーパーバイズを要請し、地域の中での役割を果たすことが出来るよう体制を強化してまいります。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	3	2		他事業所との交流がありませんが、愛の家での他事業所との交流はあります。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			年5、6回大刀洗町の自立支援協議会に参加しております。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			様々な方法で情報共有模索しつづけ、発達の状況や課題など様々な情報の共通理解ができるようにしてまいります。
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			来年度より年間計画にあげ、計画的に開催する体制を整えて参ります
機 構 の 運 営	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			HPの掲載だけでなく、多様な手法にて情報が確実に届く体制作りを強化してまいります。
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			より一層最善の利益の保証の為に意見を聞く機会だけではなく、どうすれば叶えることができるかを考えます。
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			より一層最善の利益の保証の為に意見を聞く機会だけではなく、どうすれば叶えることができるかを考えます。
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			より詳しく内容の説明や分かりやすい項目設定にするなど、隨時行なっています。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3		年に1度、保護者会を開催していますが今後、行事等の企画を立て保護者同士の交流ができる機会を増やします。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			業界や法人全体での情報公開をしていける体制作りを行います
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			ブログ、インスタグラム等で情報発信を引き続き行います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			法律に則った個人情報の使用はもちろんのこと、安心してご利用いただきための指針の強化を行います。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			より幅広いニーズに応えられるよう体制を整えます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1		積極的に行事を計画したり、参加を促すなど、馴染みやすい取り組みを行ってまいります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			実際に合ったマニュアルの整備を行い訓練を通して常に良い物にしていく努力をしてまいります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			専門家の意見を伺い、幅広い訓練を行いながら有効な業務継続計画の作成と運用を行ってまいります
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			各種の支援ができる人材育成の為に服薬やてんかん発作などの研修や訓練を行って行きます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	アレルギーの児童がいません。	医師の指示に基づき個別で対応させていただきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			安全計画についても見直しを行い訓練を通じて、より安心安全にご利用頂ける環境を整備してまいります
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		安全計画に基づいて職員間で研修、訓練を行っており、その内容に関しては公式LINEやブログなどのSNSを活用し取り組み内容の周知を図っています。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			法人全体でのヒヤリハットの共有、分析、対策機能を強化し、より強固な安全対策の為の体制を整えてまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			必要な研修、訓練を引き続き行ってまいります
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			より精密な状況の想定や身体拘束解除までの道筋を明確に示すなど体制を強化してまいります。